



柏子所貝塚出土品



柏子所Ⅱ 縄文後期の水さらし場遺構

3月16日講演 加藤 竜先生（秋田県立博物館副主幹）略歴

東京都出身。平成10年、國學院大學文学部史学科卒業。平成10年、秋田県埋蔵文化財センター採用、県内の発掘調査に従事。平成26年より秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室に所属。平成29年より秋田県立博物館に所属し、現在普及・広報班長（兼）副主幹。

今回講演 『柏子所貝塚と麻生遺跡について』

出土品が国および秋田県の指定文化財となっている、柏子所貝塚と麻生遺跡について紹介します。

3月17日講演 谷地 薫先生（秋田県埋蔵文化財センター前所長）略歴

昭和34（1959）年6月 秋田県鹿角郡小坂町生まれ。
 昭和57（1982）年3月 静岡大学人文学部人文学科（日本史学・考古学専攻）卒。
 4月 鹿角市立八幡平中学校教諭。
 昭和60（1985）年 秋田県埋蔵文化財センター学芸主事。
 平成10（1998）年 秋田県教育庁文化課学芸主事。
 以後、文化財保護室、埋蔵文化財センター勤務。
 平成31（2019）年 秋田県埋蔵文化財センター所長。
 令和 2（2020）年～ 弘田柵跡調査事務所にて文化財主査（兼）班長として再任用。
 現在に至る。

今回講演 『能代地区の縄文時代後期』 について

柏子所貝塚の北東700mに位置する柏子所Ⅱ遺跡は、平成14年に日本海沿岸東北自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、秋田県内では2例目となる縄文時代後期（今から約4,000年前）のトチの実等のアクを抜くための水さらし場遺構が検出された。能代地区には、縄文時代後期の遺跡が、米代川流域に点々と所在している。これらの遺跡から検出された遺構や遺物から、より上流で見ついている伊勢堂岱遺跡や大湯環状列石との関係性について考えてみたい。